

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	Academic Spoken English I		
英文授業科目名	Academic Spoken English I		
開講年度	2008年度	開講年次	1年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	演習	単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 知能機械工学科		
担当教官名	佐藤 美弥子		
居室	東1-615		

公開E-Mail	授業関連Webページ
satoh@cs.uec.ac.jp	

<p><b>【主題および達成目標】</b></p> <p>下記の【学生へのメッセージ】を先ず読んで欲しい。</p> <p>(1)中学・高校で教わった「こういう場合には、こうなる」という結果論に終始する英文法を、「なぜ、そうなるのか」という観点から見直す。つまり、英語を第一言語とする人々の思考過程を知れば、英語のルールも解り、英語を使えるようになる。</p> <p>(2)未知の英単語や英語表現と遭遇した時に、既知の情報から「自力で」類推できるよう、「語源」や「前置詞」「動詞の個性」などに着目し、中学で英語を学び始めてから現在に至るまで訳も分からず頭に詰め込むことに終始した断片的情報を、整理統合する。英語を「道具」更には「武器」として、使えるようにする為である。</p> <p>(3)授業中には指導の機会が少ない「発音(リズム)」を、言語自習室(F棟101室)で「リズム学習」プログラムを使って自習して貰う。学期の最初と最後に行なう個々人のレベルの判定も含め、学習履歴と「変化」を追跡し、必要に応じて個別指導をする。</p> <p>前期週二回のこの授業で「英語使用者」へと生まれ変わり、後期からは自信を持って「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能に磨きをかけて貰いたい。</p>
--

<p><b>【前もって履修しておくべき科目】</b></p> <p>なし</p>
--

<p><b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b></p> <p>なし</p>
---

## 電気通信大学 平成20年度シラバス

### 【教科書等】

教科書：Murphy, Raymond, and William R. Smalzer. Grammar in Use: Intermediate. 2nd ed. Cambridge: Cambridge UP, 2000.

参考書：『語源中心受験英単語1300』（エイブル語学研究社、1993）

配布マニュアル：「リズム学習」

### 【授業内容とその進め方】

Present and Past (Units 1-6)

Present Perfect and Past (Units 7-17)

Future (Units 18-24)

Conditionals and “Wish” (Units 35-38)

内容の難易度や受講生の反応に応じて進度を変えるが、毎回、平均して、2 units はこなすので、かねてから疑問に思っている点を整理するなど、準備してくること。なお、時間があれば、Modals (Units 25-34)も取り上げる。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

出席（欠席回数が総授業回数の三分之一を超えると失格）、発言、小テスト、中間・期末試験の結果、リズム学習の成果を、成績評価の対象とする。

### 【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。授業終了後が不都合な場合は、教員と学生双方に都合の好い日時。

### 【学生へのメッセージ】

英語を使いこなすには、英語のルールを知っていなければならない。しかし、そのルールは、諸君もご存じのように、丸暗記しても身につかない。「こういう場合には、こうなる」という知識は、「なぜ、そうなるのか」を理解して初めて、運用も適用も可能となる。この授業では「なぜ？」の解明に受講生が総力を挙げて挑むことになる。教室での情報・意見の交換に積極的に参加しようという諸氏の受講を望む。

### 【その他】

金曜日開講の Academic Written English I と連動しているので、一方を履修すると他方も履修することになる。